別紙４

● 世界の主な火山活動

平成 23 年（2011 年）10 月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。

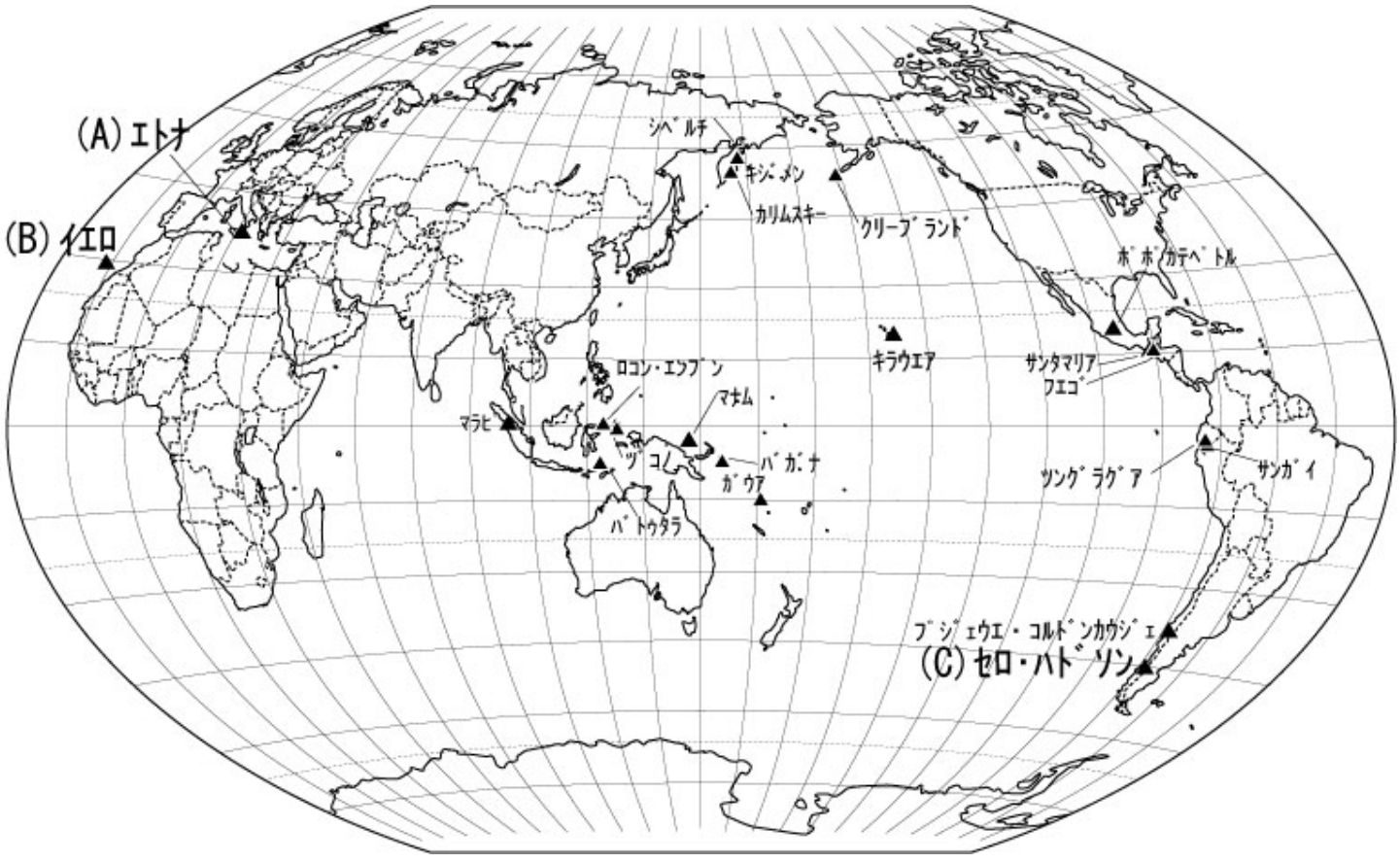
エトナ（イタリア）（図中Ａ）

７月に活発化した活動は 10 月も継続した。南東火口では溶岩流や溶岩噴泉を伴う突発的な噴火が２回発生した。

イエロ（スペイン）（図中Ｂ）

10 日にイエロ島内全ての地震観測点で火山性微動が観測され、海底噴火が認められた。11 日に微動の振幅が大きくなり、島南端の村の住民が避難した。12 日には島の南海上で薄緑色の変色水が確認された。

セロ・ハドソン（チリ）（図中Ｃ）

25～26 日に地震の増加がみられ、26 日には火山灰を含む噴煙と火山泥流が確認された。27 日には新たな３つの火口が発見され、最南端の火口からは噴煙が火口縁上５㎞まで上がるのが確認された。140 人が避難した。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館のＧＶＰ（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。）